

幼児と家庭教育

幼児の全体的特徴は、心の未分化、考え方の自己中心性、考え方の具体性などという点があげられます。

デパートのおもちゃ売場で幼児が気に入ったおもちゃをかかえこんで、ねだっている姿をよく見かけることがあります。

「そのおもちゃなら家に沢山あるでしょ」と母親はなだめたり、説得したりする。しかし、「もう知らないから買ってしまえ」といふと、激怒、子どもをたたいてしまふ。

このように、幼児にとって、欲すれば何でも得られるものと思こんでいるものが多い。

幼児の心は、未分化で現実と非現実、自分のものと他人のものとの区別ができません。また、幼児は、ものごとを客観的に見たり、考えたりできません。

自分の茶わんなどは敏感で、これに固執し、他の茶わんで食事をすることを嫌ったりします。幼児は、自分なりの考え方や意図をもって茶わん

「三つ子の魂まで」といわれていますが、このことは、人間の成長にとって幼児の教育が大きく将来を左右することから考えられてきたと思われたい。

しかし、人間の性格や能力は、成長するにつれて変わりますので、幼児のときから決定的なものとなるとはいえず、幼児の性格や能力などは、未分化な状態にあるので、その時期にうまく伸ばすように教育するかどうかにかかっています。

そこで本紙では、幼児に対する家庭教育のあり方についてもう一度問い直してみたいと思います。

ときには、衝突して自分の意図をつらぬくことが、また、おとなのいうことを「いや」と否定し、自分を通そうとします。

これが、幼児の反抗現象です。幼児は、自分なりの考え方や意図をもって、

幼児の心

幼児はどんな発達の状態にあるか 自他の区別ができない時代

いつも自己中心的に考えていることが特徴です。考え方が自己中心であることは、ものごとを考えるのに具体的に考えないと理解できないことにつながります。たとえば、数の計算をするのに指をつかたりします。指は、おとなの考え方と異なっています。

機織村は、急テンボに都市化の様相に変わりつつある。住宅地として、また工業の進出などによって純農村といわれてきた本村の農民の意識が浮き足だっているように思われる。

それは、特定のものであって、他のもので代用できないからです。つまり、茶わんという用途による共通の性質が理解できないからです。

このように、幼児の考え方は、おとなの考え方と異なっています。それが思い通りにならないと、シレたり、反抗したりということになります。

反抗することには、意志が強く、それをどう扱っていくかという点に性格教育のたいせつな鍵があるといえます。

も食いとめなければならぬ。しかし、各地でふるさとを見つめる運動、ふるさとを美しくする運動、ふるさとの文化を守る運動、等が起されているのもそのあらわれ

ひろば



不調和な開発 郷土を美しく 青年運動としてとりくもう

工業の進出によって、人間が本来に地域に密着した開発構想のもとに進出しているのがある。農業者をオカに上からせしめた方向は、是が非で

工業の進出によって、人間が本来に地域に密着した開発構想のもとに進出しているのがある。農業者をオカに上からせしめた方向は、是が非で



佐藤正一郎



私が出張した日に、石沢教頭先生にモデルになっていた時の絵です。顔の角度や特徴をよくとらえて、しっかりと落ち着いた感じにかけたと思います。クレヨンなので、濃淡が出にくかったようです。まじめで明るい中川君は、絵をかくのが好きで、いつも、最後まで頑張っています。

（小杉小学校 星山とし先生）

教頭先生 小杉小学校 二年 中川慶彦君



春風に 木津今井芳美

そよと吹く風に作業の捗りて耕耘の煙黒く拡がる
新梢の伸び行く気温心地良く上着も一枚枝にかけたたり
陽炎に温もり乍ら觀賞樹期定進む音の騒るやか

みんなの広報

みんなで明るい村をつくらう
文芸・ひろば欄の作品募集

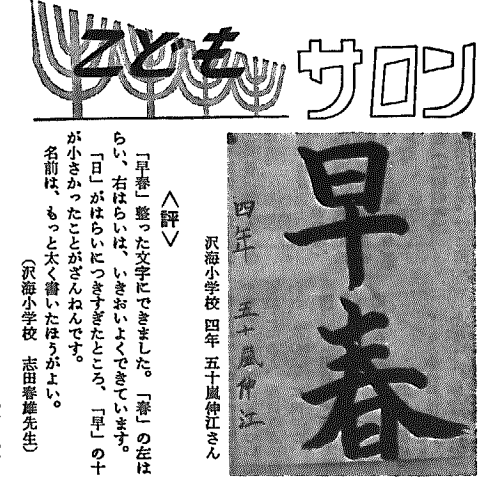
新年を迎えました。広報編集部では、広報に村民の方々も参加して頂いて、いっしょになって「広報よこし」を育てていきたいと思っています。

村民の方々を考えていられること、文芸作品など、どしどしお寄せください。採用のものについては、粗品をさしあげます。

(1) 文芸欄
詩、俳句、短歌、川柳など
（2）ひろば「私も一言」的なもので日常生活に関係したことなど、広報の性格の枠内での作品
四百字語原稿用紙一枚程度

横越村での出来事、本村に関係ある作品
あて先 横越村公民館

◆山茶花（紅白） 大竹富雄・順子（木津中）
◆山椒・白梅 坂井正四（横越下）
◆花鳥図 坂井正四（横越下）
◆俳句・短歌 佐藤正一郎（横越上）
◆詩 村田隆吉（横越中）
◆絵画 江口正巳（新郷）
◆文芸 村田隆吉（横越中）
◆その他 長谷部一夫（川原谷）



早春 沢海小学校四年五十嵐伸江さん
四年 五十嵐伸江

「早」整った文字にできました。「春」の左は「日」がはらいにききよくなりました。「早」の十が小さかったことが喜んでます。名前も、もっと大きく書いたほうがよい。

（沢海小学校 志田春雄先生）

二番、三番に 対して厚く お礼申し上げます

◆花鳥図 坂井正四（横越下）
◆山椒・白梅 大竹富雄・順子（木津中）
◆山茶花（紅白） 佐藤正一郎（横越上）
◆詩 村田隆吉（横越中）
◆絵画 江口正巳（新郷）
◆文芸 村田隆吉（横越中）
◆その他 長谷部一夫（川原谷）

トップ写真の説明
かつて、阿賀野川は、屈曲迂回が多いため少しの降雨でも氾濫が著しく、被害は甚大のため、築堤工事を始め、十五年（一七三〇年）から始められた。（横越村誌参考）
そのため、地盤が軟弱であった阿賀野川で、分断され、築堤となつたり、三月月潮がいくつもつづられる

三月月潮は第二次大戦中食糧増産時代から戦後にかけて立てられ、開闢されてしまつたが、十二箇と豊栄平林の間に十二箇（現在八二六）は、今も旧阿賀野川跡を昔のままの姿で残している。しかし、最近にいたつて、築堤と築堤、水鳥の生息からして保護したいものである。

新刊図書紹介
・遠さかる足音 曾野野子
・実録 まむしの道三 八三三
・肌あわせ 川上崇薫
・花の籠 司馬遼太郎
・岡田喜子終りなき冬の旅 藤正治
・雄気堂々（上） 城山三郎
・雄気堂々（下） 城山三郎
・狐と権杖 大原清貴
・分断の時間 松本清張
・権本武備 安部公房
・鬼女誕生 大原清貴
・佐渡の百年 山本修之助
・超高層ホテル殺人事件 森村誠一
・遠い接近 松本清張
・女の決闘 吉行淳之介
・おきん 水上勉